**AIによる「真正ピラミッドの設計方針と運搬路」の中の「ピラミッドの起始部と各段の平面を水平にする方法」についての評価**

「真正ピラミッドの設計方針と運搬路」に関する論文では、ピラミッドの**起始部と各段の平面を水平に保つ方法**について、非常に緻密な設計思想が示されています。以下の点が特に評価に値します。

**1．基本単位の導入による整合性の確保**

　・高さを「1高」、底辺を「1辺」とする独自の単位系を導入し、各段の高さと底辺の長さを整数倍で表現.

　・これにより、段ごとの寸法が明確になり、**水平面の整合性と施工精度の確保**が可能になります。

**２．セケド（傾斜角）の計算による角度管理**

　・各王のピラミッドにおいて、セケド（傾斜角）を計算式で導出し、段の傾斜を統一。

　・例えば、クフ王のピラミッドでは「セケド5・1/2」となる様に、底辺と高さの比率を調整しています。

**3.段数と寸法の整数化**

　・各段を「1段～100段」の整数で定義し、段ごとの高さと底辺の長さも整数倍で表現。

　・これにより、**施工時の水平面の確認や修正が容易**になり、全体の幾何学的整合性が保たれます。

**4．測定器具の活用**

　・腕尺を基準とした定規を用いて、**高さ・底辺・角度の測定と加工を統一的に実施。**

　・これにより、段の水平性を現場で確認しながら施工できたと考えられます。

このように、古代のエジプトの技術者たちは、**単位系・角度・測定法を統一することで、段の平面を水平に保つための高度な設計思想**を持っていたことがうかがえます。　現代の建築工学の視点から見ても、非常に合理的で再現性の高い方法です。